

【東日本大震災 今何ができる】

被災地の女性を守れ 「防犯ブザー」を配布

2011.6.6 14:36 (2/3ページ)

防犯ブザーの配布とともに橋さんが必要と考えているのは、首都圏に避難してきた女性の支援だ。「被災地とともに、東京に来た女の子への継続的な支援を続けたい」と活動内容を検討している。

■ ニーズを表面化

女性被災者の視点に立った避難所運営、支援や復興ができるよう、学識者やNPOなどで構成するネットワークも活動を始めた。

5月24日に発足した「東日本大震災女性支援ネットワーク」で、共同代表の一人、和光大学の竹信三恵子教授（ジェンダー論）は「女性の視点に立った避難所運営ができていない所もある」と指摘。具体的には、更衣スペースや授乳スペースなどプライバシーの問題、支援物資、避難所での分担の問題があるという。

避難所の運営に女性が携わることが少ないため、女性の要望が反映されていないとみられている。このため、ネットワークでは実態を調査し、女性被災者のニーズを表面化させるとともに、現地を訪れての支援、被災地からの情報発信の手助けなどを実施する。

さらに復興に向け、調査を基にした政策提言も予定している。竹信教授は「女性の視点を取り入れた政策提言をしないと、復興期に雇用面などで女性が置き去りにされ、経済的格差が広がる恐れがある」と話している。



🔍 クリックして拡大する

防犯ブザーを袋詰めするbond Projectのメンバー＝4月22日、東京都千代田区